

父島におけるバン *Gallinula chloropus* の繁殖記録

千葉 勇人 (小笠原自然文化研究所)
大好 健二 (国設鳥獣保護区管理員)
鈴木 創 (小笠原自然文化研究所)
鈴木 直子 (東京都鳥獣保護員)

要 約

小笠原諸島父島において、2014年4月5日にバン *Gallinula chloropus* の孵化後間もないヒナを観察・撮影した。同種の繁殖記録は小笠原群島において初となる。

I. はじめに

バンは、約15亜種がオーストラリア地域を除き、全世界の熱帯から温帯にかけて分布する(眞野1984)。日本では北海道から南西諸島まで広く分布し、本州北部以北では夏鳥、本州中・南西部以南では留鳥として、水田、湿潤な草地に生息する。また、小笠原諸島のうち、父島と母島では冬鳥、硫黄島では偶発的に繁殖する(日本鳥学会、2012)とされる。

バンは、クイナ科に属し、父島では冬季にオオバン *Fulica atra* とともに比較的良好に観察されているが、春から夏を通じた観察は少ない。また、幼鳥も観察されているが、これまでに飛翔力のないヒナが観察されたことはなかった。

父島において、孵化後間もないヒナ4羽を連れたバンの成鳥を観察したので報告する。

II. 繁殖の確認

1. 繁殖地の概要

バンの繁殖を観察した場所は、東京都小笠原村父島字長谷地内にある長谷ダム(27°03'59" N、146°12'52" E)で、八瀬川水系の長谷川にある。長谷ダムは、1978年に築造された灌水面積約1200 m²、有効貯水量4,200 m³の灌漑用農業ダムで、東京都は2011年度にダム内の浚渫工事を実施している(小笠原自然文化研究所、2013)。ダム湖岸は、左岸は管理道路に面した幅1~5 m程の植生があり、右岸は湖岸の草本を主体とした植生の後、そのまま山腹の在来植生に繋がる。湖岸はシュロガヤツリ *Cyperus alternifolius* を主体とした挺水植物が繁茂している(図1)。約800 m下流には、1972年に築造された水道用の小曲ダ



図 1 長谷ダム（上流側より堤体を望む）

ム（灌水面積約 4,000 m²、有効貯水量 16,400 m³）があり、その後逢瀬橋付近で時雨川と合流し、そこからは河口まで河床勾配がほとんどない八瀬川となっている。

2. 観察日

ヒナを最初に確認したのは 2014 年 4 月 5 日で、父島内を定期的に巡視していた際である。その後は継続的に観察した。ヒナが成鳥と変わらないほど大きくなり、区別が難しくなった 8 月 24 日以降は、親子関係の判断を打ち切った。8 月迄の観察記録を表 1 に示す。巡視は継続しており、バンは 12 月まで引き続き観察されている。

Ⅲ. 結果と考察

日本周辺におけるクイナの仲間で成鳥夏羽が全体的に黒色で額板がある種は、バン、オオバン、ツルクイナ *Gallinago cinerea* の 3 種である（高野、1982）。観察した親子と思われる個体のうち成鳥は、脇に白色斑があり、下尾筒の両脇が白く、嘴と額板は赤く、嘴の先端が黄色をしており、バンの形態に関する高野（1982）の記述と一致する。また、ヒナは黒い綿羽に覆われ、頭には橙色の綿羽があり、これもヒナの形態に関する高野（1982）の記述と一致する（図 2）。体色が似ているオオバンの額盤は白く、また、ツルクイナの額盤は赤いが、脇や下尾筒に明瞭な白色はなく、これら 2 種に該当しないことは明らかである。

表1 長谷ダムにおけるバンの観察記録

観察日	観察時刻	確認状況	写真等	観察者
2014.04.05	12:10	親1、子3 1羽は親から離れず。残り2羽は少し離れて移動	写	大好
2014.04.07	15:20	親1、子4 ダム奥の流水口(北)のしげみで出入り /一瞬で撮影できず		鈴木創
2014.04.12	8:55	成鳥1		大好
	15:13	親2、子4 ダムの左奥茂みから、時計回りでダム取水口まで移動	写・動	鈴木創
2014.04.18	11:11	親1、子3 成鳥2 1羽は親から離れず餌を貰う。残り2羽は勝手に移動して餌をとる	写・動	大好
2014.04.19	16:10	成鳥1		鈴木直
2014.04.20	14:17	親1、子3 2羽のヒナは親と開水面によく出てきたが、1羽はほとんど草叢にいた	写	千葉
2014.04.24	10:15	確認できず		大好
2014.05.03	10:10	成鳥2		大好
2014.05.06	16:30	鳴き声のみ(複数回)		鈴木直
2014.05.09	10:11	鳴き声のみ(複数回) ダム奥の流水口左(北)のしげみに気配あり		鈴木創
2014.05.10	10:10	親1、子2		大好
2014.05.18	11:10	確認できず		大好
2014.05.24	9:30	親1、子3	写 (親のみ)	大好
2014.05.27	11:40	親1、子2		鈴木直
2014.06.03	10:15	確認できず		大好
2014.06.08	11:10	鳴き声のみ(複数回)		鈴木創
2014.06.15	10:27	子3 水面を飛んで移動。親は確認できず		大好
2014.06.25	14:55	子1		大好
2014.06.26	15:45	親1、子1		鈴木直
2014.07.04	10:12	鳴き声(1声)のみ		大好
2014.07.08	14:00	確認できず		鈴木創
2014.07.19	8:23	確認できず		大好
2014.07.25	14:00	鳴き声のみ(複数回)		鈴木直
2014.07.27	8:50	子1	写	大好
2014.08.02	9:45	確認できず		大好
2014.08.15	10:00	確認できず		大好
2014.08.24	7:20	親1、子2 目視では子だけだが、写真に成鳥が並んで写っていた	写	大好
2014.08.27	16:30	成鳥1		鈴木直

観察時刻は観察できた場合は始まりの時刻とし、観察できなかった場合は観察開始時刻とした。
親と成鳥(親子関係ではないと判断した成鳥)の区別はヒナとの接触状況をみて判断した。

4月5日初めて観察したヒナは、黒い綿羽に覆われていたが、6月15日には水面を飛んで移動するまで成長していた。その後なかなか確認することができなかったが、7月27日に若鳥1羽(図3)、8月24日には若鳥2羽を観察し、無事に育っていることが確認された。バンは1シーズンに2回繁殖を行うことがあるが、この番では、その後新たなヒナを確認していないので、繁殖は1回だけだったと思われる。本観察は、小笠原諸島として硫黄島に次ぐ2回目の記録であり(時田・渡辺、2001)、小笠原群島においては初めての記録



図 2 バンの親子 (2014/04/05)



図 3 若鳥に成長したバン (2014/07/27)

となる。

今回繁殖を確認した八瀬川水系は父島の中部に位置し、島内で最も水系が発達した地域である。そのため上流にはダムや堰が数多く建設されている。バンの生息環境とされる湿潤な草地は、もともと小笠原群島には少なかったと考えられる。1968年を境に返還後は社会基盤整備が進み、ダム建設による開水面と湖畔にシュロガヤツリを主体とした草叢が形成され、繁殖に適した環境が出現したことにより、越冬個体がそのまま定着して繁殖したものと思われる。

長谷川及び長谷ダム湖内から水生動物は、腹足類(巻貝類)7種、ヒル類1種、甲殻類(エビ・カニ類)9種、昆虫類6種、魚類5種、両生類1種の合計29種が確認されている(小笠原自然文化研究所、2013)。そのうち外来種のサカマキガイ *Physa acuta* は、長谷ダム及びその下流河川に多く(小笠原自然文化研究所、2013)、植物ではダム湖内にマツモ *Ceratophyllum demersum* が確認されており(小笠原自然文化研究所、2012)サカマキガイが付着していることも多い(佐々木哲朗、私信)。雑食性のバンは外来種とされるこれらを餌として利用している可能性がある。

長谷ダムで繁殖を確認して間もない4月8日に下流にある小曲ダムでは、バンの成鳥5羽を観察している。他に観察した鳥類はカイツブリ *Tachybaptus ruficollis* 3羽、ヒドリガモ *Anas penelope* 2羽で、冬鳥が残っている状況であった。バンの抱卵期間は約21～22日で(眞野、1984)、繁殖した番は3月上旬には繁殖行動を始めていたことになる。周囲の環境が似ている母島の玉川ダム等、今後は他の場所でも注視する必要がある。

謝辞

東京都小笠原支庁産業課には、ダムサイトへの立ち入りを許可して頂くとともに、周辺の草刈り等ダム管理に際しては、繁殖に影響が出ないよう配慮していただいた。また、本稿を作成するに当たり、小笠原自然文化研究所の佐々木哲朗氏には、長谷ダムの情報を提供していただいた。森林総合研究所の川上和人氏には、バンに関する文献の入手に当たって便宜を図って頂くとともに、原稿に目を通していただいた。お世話になった方々に深く感謝いたします。

文 献

眞野 徹 (1984) クイナ科. 黒田長久 (編・監修) 『決定版 生物大図鑑 鳥類』世界文化社, 106-109.

日本鳥学会 (2012) 『日本鳥類目録 改訂第7版』日本鳥学会, 100-101.

小笠原自然文化研究所 (2012) 東京都小笠原支庁委託 平成 23 年度長谷ダム (父島) 環境調査報告書, 1.

小笠原自然文化研究所 (2013) 東京都小笠原支庁委託 平成 24 年度父島長谷貯水池環境調査委託 (事後調査) 報告書, 16.

高野伸二 (1982) 『フィールドガイド日本の野鳥』日本野鳥の会, 124-129.

時田賢一, 渡辺義昭 (2001) 硫黄島鳥類目録 (1991 年 10 月 - 2000 年 8 月) 我孫子市鳥の博物館調査研究報告第 9 巻, 35-45.